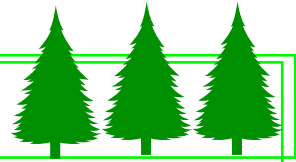


みつぎ便り



第161号 2月号 令和2年2月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所みどり公園課の花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次会」です



マンリョウ (万両)

植物の色が少なくなる冬場、マンリョウ (別名ヤブタチバナ) の鮮やかな赤い実を見つけました。見次公園では、シャガの咲く斜面にあります。鳥が運んだのでしょうか？

花言葉は、ことほ 寿ぎや徳のある人という縁起の良い意味を持ち、金運に恵まれることを願う縁起担ぎの植物として古くから親しまれています。

植物の分類上、マンリョウは「ヤ

コブコウジ科」ですが、センリョウは「センリョウ科」と別種類となっています。また、マンリョウの実は葉の下側に、センリョウは葉の上側に実がつく違いが見られます。

七月頃に白い花を咲かせ、冬にかけて実が赤く熟しますが、栽培品種には実が白や黄色のものも出回っています。
(利)

ヒイラギモクセイ (柊木犀)

ひと昔前までは節分の日、夕方になると近所から「鬼は外、福は内」と元気な子どもの声が聞こえていました。最近はこの声を聞く事が少なくなりました。最近はこの声は聞かなくなりました。

この日は、玄関先にヒイラギの枝に鯛の頭を刺し、大豆を煎った豆をまき、じゃき 邪気を祓い、はら 幸福を呼ぶ行事が行われるのはご存じのことと思います。そこで、見次公園にヒイラギ



が無いものかと探しましたが残念ながら見つかりませんでした。

今回は、ヒイラギと名前が付いたヒイラギモクセイを紹介します。この木は「ヒイラギ」と「ギンモクセイ」の交雑種です。

場所は見次公園の首都高速側フェンス近くにある二m位の常緑広葉樹で成長すると五〜八mにもなります。花は十月頃にギンモクセイのような白い花が咲き、良い香りがします。
(圭)